



The Japanese Red Cross Society of Nursing Science

日本赤十字看護学会

Vol.15, 2017.

日本赤十字看護学会ニュースレター 第15号 2017年12月発行

# NEWS LETTER

— 1



「赤十字は、その原則を尊重しながら多くの活動を発展させ、人々、特に青年層に対して相互理解と友愛の精神を広め、それにより持続的な平和を促進することにおいて重要な役割を果たすべきである」

第23回赤十字国際会議（1977年）で決議された、赤十字の任務  
ジャン・ピクテ著：赤十字の基本原則（第2版） 東信堂

## 投稿論文の Web 査読システムの導入と、 学会誌のオンラインジャーナル化について

日本赤十字看護学会編集委員会  
委員長 本田多美枝

編集委員会では、会員の皆様の論文がより迅速に、そしてより多くの方々に閲覧していただけるよう、論文投稿・査読・公表のシステムについて検討を重ねてまいりました。このたび、第18回日本赤十字看護学会総会においてご報告させていただきました通り、投稿方法等が以下の通り変更となりましたのでご案内いたします。

### ■投稿方法の変更について

日本赤十字看護学会誌の投稿方法が、2017年9月8日より電子投稿・査読システムへ変更になりました。今後、すべての投稿論文を電子システム (<https://iap-jp.org/jrcsns/journal/>) で受け付けます。郵送によって投稿された場合は、再度、電子システムでの投稿をお願いすることとなりますので、ご留意下さい。電子システムを導入することによって、査読に要する時間を節約することができます。また、投稿に関わる手続きも簡略化されます。是非、引き続き、積極的な論文投稿をよろしくお願いいたします。投稿方法の詳細は、本学会ホームページにてご確認ください。

これにあわせて、会員の皆様に郵送していた学会誌は、第17巻第1号（2018年3月発行予定）より、本学会ホームページで閲覧できる電子ジャーナルに変更いたします。なお、紙媒体での学会誌をご希望の方は、有料（1冊2,500円）にて承ることができます。申し込み方法等は、本学会ホームページにて近日中にご案内予定です。

### ■投稿者の資格および投稿論文の種類変更について

投稿者はこれまで通り本学会員に限りませんが、共著者が会員でない場合、年会費の半額を納入することで本会誌への投稿・掲載が可能になりました。これにより、学際的な研究論文が投稿しやすくなります。手続きにつきましては、本学会ホームページにて近日中にご案内予定です。

また、英文での投稿も可能になりました。詳細は、本学会ホームページに掲載している投稿規程をご覧ください。

### ■編集委員会事務局の移転について

2017年9月1日より、編集委員会事務局が下記の通り変更となりましたので、お知らせいたします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19 (株)国際文献社内

日本赤十字看護学会編集委員会事務局

Tel : 03-5389-6492 Fax : 03-3368-2830 E-mail : jrns-edit@bunken.co.jp

## 第18回日本赤十字看護学会 学術集会を終えて

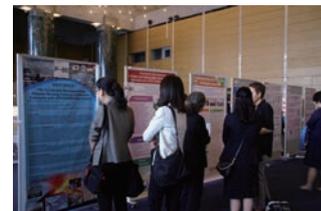


第18回日本赤十字看護学会学術集会  
会長 浦田喜久子

第18回日本赤十字看護学会学術集会は、平成29年6月24日、25日に開催され、無事終了致しました。梅雨の時期で、1日目は雨に見舞われたにも関わらず、遠方より多くの方にご参加頂きましたことに深く感謝申し上げます。学部生・大学院生43名を含み406名の方に参加頂きました。

研究は、口演73題、示説28題の合計101題発表され、活発な意見交換がなされました。主なプログラムである、基調講演「赤十字から見た人道の世界地図」(近衛忠輝氏:日本赤十字社長、赤十字赤新月社連盟会長)、特別講演「看護の原点を求めて」(浜渥辰二氏:大阪大学)、教育講演「癒やしをもたらす関係における医療と看護」(竹熊カツマタ麻子氏:前米国 OSF 聖アンソニー・メディカルセンター)、会長講演等「グローバル時代の赤十字の看護と看護教育」(浦田喜久子:前日本赤十字九州国際看護大学)、シンポジウム「人権と看護実践」は、本学術集会のテーマである「一人を見る目、その目を世界へ 一赤十字看護の原点を見つめて」にそった内容で、改めて、赤十字や看護を深める学びがあったように思います。また、市民公開講座として、認知症のお母様の介護体験を「母の道しるべ」(岡野雄一氏(『ペコロスの母の玉手箱』著者)を講演頂きました。自作自演の歌は大変好評でした。83名の一般市民の方にも参加頂きました。ナースィング・サイエンスカフェは、「もっと知りたい、赤十字の看護」をテーマに6つのブースを設置し、主に小・中・高校生の方々95名が救急法やシュミレーターの体験、災害時の物資等について大変興味深く学びました。

最後に、講演や座長を勤めいただきました皆様、運営を滞りなく進めて頂きました、事務局スタッフ、学生ボランティアの皆様にも深く感謝申し上げます。



## 第18回日本赤十字看護学会 学術集会に参加して



私は初めて学会に参加しました。近衛忠輝先生による「世界各地の紛争や被災地への人道的支援」と題した基調講演や赤十字活動に直結したテーマセッションおよび「人権と看護実践」のシンポジウム、また、全国の赤十字病院・日本赤十字学園6大学・赤十字看護専門学校から幅広い領域の看護研究・看護実践報告がなされ、スケールの大きさを痛感し、多様な人道的看護実践について再認識できました。そして、看護教員としての今後の課題を再考する機会を得ることができました。 日本赤十字豊田看護大学 遠藤幸子

6月24・25日に北九州市で開催された日本赤十字看護学会学術集会において、修士論文の「男性高齢者のボランティア活動への継続に関連する要因の検討」を発表させていただきました。3月に修士課程を修了した仲間と掲げた、「北九州で再会する」という目標を達成でき嬉しく思います。「北海道の冬はどのようなボランティアがあるのか」等の質問もいただき、視野が広がりました。仲間達との再会を楽しみに来年も参加させていただきたいと思います。 日本赤十字北海道看護大学 藤谷未来

## 第19回日本赤十字看護学会 学術集会のご案内



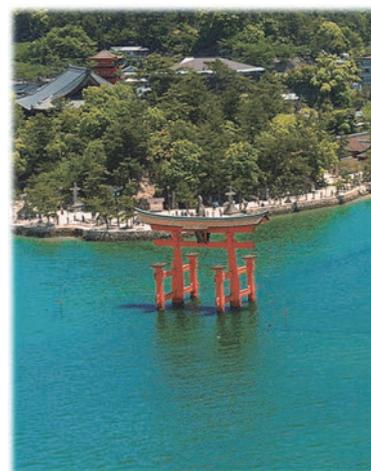
第19回日本赤十字看護学会学術集会  
会長 小山真理子

広島県廿日市市の日本赤十字広島看護大学において、2018年7月7日(土)・8日(日)の2日間にわたり第19回日本赤十字看護学会学術集会を開催することになりました。本学術集会のテーマを「育つ力と育てる力がクロスする共育文化の醸成」というテーマとしました。本学術集会では、人材育成のテーマに限らず、教育、実践、研究に関する多様なプログラムを準備しています。

会員の皆様には、一般演題(口演・示説)・交流セッション等で日頃の成果をぜひご発表くださいますようお願い申し上げます。詳細については、ホームページをご覧ください。

年1回の学術集会で、会員、非会員を問わず、参加者の皆様と研究活動や実践報告について活発な意見交換を行うことで、更なる実践の改善に向けたアイデアを得ることができる学術集会にしたいと願っております。多くの皆様方のご参加をお待ち申し上げます。

第19回日本赤十字看護学会学術集会ホームページ <http://www.jrcsn19.jp>



## 第46回フローレンス・ナイチンゲール記章を受章して

名古屋第二赤十字病院  
副院長兼看護部長 伊藤明子

フローレンス・ナイチンゲール女史の生誕日である5月12日に、第46回のフローレンス・ナイチンゲール記章の受章者が、赤十字国際委員会から発表されました。そして8月2日には、日本赤十字社名誉総裁皇后陛下御手から、フローレンス・ナイチンゲール記章をお授けいただきました。

私は島根県の松江赤十字看護専門学校を卒業し、手術室の看護師として4年経験後、看護師研修所（現在の研修センター）で1年間学ぶ機会を得ました。私は常に他者の存在を念頭に置き、自分の周りの人々を「慮る」ことを寮生活や看護教育の中で学んだように思います。もちろんこれは赤十字の理念である人道の原則の行動化でもあります。私の国際活動の始まりは小学生の頃に遡ります。学校の廊下で目にしたアフリカの飢餓の子どものポスターの前で、「この子を助けられたら…」と、思ったことを今でも覚えています。海外は無理でも、自分たちの近所に手を差し伸べたいと勝手に考え、担任の先生に相談をし、クラスの同級生に呼びかけ自分たちの持っている本をある児童施設に贈ったことがあります。その時、自分の考えを言語化し、伝え、そして行動することで、人と人はつながるのだと感じました。時間が経つにつれ、国際活動は都会の人々しか機会はないとあきらめていましたが、人を助けたいという思いと、小さな頃に会った看護師さんのこともあり、私は看護師の道を歩むことにしました。

私は特別なことをした訳ではなく、特別な人間でもなく、赤十字の看護師として、凛として、粛々と自分の目の前にある、時には自分に期待されている看護を積み重ねてきました。ですから今回のフローレンス・ナイチンゲール記章の受章にあたり、私の中には戸惑いがあることも正直な気持ちです。

この度の受章は、私を支え、励ましてくださいました先輩諸姉、同僚・後輩をはじめ多くの方々のお陰であると深く感謝しております。私は、紛争下で傷ついた人びとの救援活動や被災地での支援活動を通して苦しんでいる多くの方に寄り添い、看護師として与えられた責務を果たすとともに、赤十字の基本理念である「人道」を実践することを第一としてまいりました。と同時に、赤十字の看護教育で身につけた「慮る」ということを実践してまいりました。傷つき、失われた多くの命、そしてその中で強く生きる命を通して、たくさんの方々のことを学ばせていただき、その人々の笑顔に支えられてきました。

紛争地に暮らす人々はフローレンス・ナイチンゲール女史のことも、この記章のことも知りません。しかし「Akikoが何か章をもらったらしい。光栄なことらしい」と一瞬でも笑顔になってくれたら。傷つき、あるいはいのちを失った多くの人々が、届かない、届くはずのない、この知らせを知った時の人々の笑顔を想像すると、涙が出そうになるくらい嬉しいことです。

今回の受章では、私を通して多くの方が赤十字の活動に眼を向け、派遣地に暮らす人々のことに思いを馳せていただけることに、この受章の意味があるのだと考えています。心よりお礼申し上げます。



写真提供：日本赤十字社

## 初めての看護研究オースタムセミナー



研究活動委員会  
委員長 武井麻子

10月9日、東京の日本赤十字看護大学にて本学会研究活動委員会主催の第1回看護研究オースタムセミナーが開催されました。当日は、83名もの方々が参加され、首都大学東京の西村ユミ先生の講演『看護実践を豊かにする現象学的研究の方法』の軽妙な語り口に聞き入っておられました。内容も現象学の理論だけでなく、実践の語りの例を交えて、大変分かりやすかったと大好評でした。当日の資料は、本学会ホームページに掲載予定です。どうぞご覧ください。

今後もオースタムセミナーは、各地の大学で毎年開催する予定です。ぜひ、会場にと思われる方がおられましたら、事務局までご連絡ください。

12月1日から本学会研究助成の募集も始まります。ふるってご応募ください。

### 研究助成制度を活用しよう！

日本赤十字看護学会には、学会員による研究費用の一部を助成する制度があるのをご存知ですか？

研究に取り組みたいと思っても、いざ実際にやろうとするとお金がかかります。多くの助成金制度があっても、それを獲得するのは一苦労です。とくに臨床の場では研究にかかる諸費用をどうやって捻出すればいいのか、悩んでおられる方も多いと思います。

そういう方々にぜひ利用していただきたいのが、本学会の助成金です。個人でもグループでも応募できますし、看護に関する研究であればすべて対象となります。助成金額は1件30万円で、今年は12月1日から12月22日が応募期間です。

詳しくは学会ホームページの「研究活動委員会」から「研究助成について」のページをご覧ください。応募用紙などもこちらからダウンロードできます。

### 「会員管理事務局」移転のお知らせ

平成29年の総会で、会員の入退会および会員情報を管理する「会員管理事務局」の外部委託が承認されました。その後、本学会は株式会社毎日学術フォーラムと会員管理の業務委託契約を結び、同年10月2日より会員管理事務局を下記のとおり移転しました。

入退会手続きや会員情報変更のご連絡は「会員管理事務局」までお願いします。

■ 日本赤十字看護学会「会員管理事務局」  
住所 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル  
(株)毎日学術フォーラム内  
Tel 03-6267-4550 Fax 03-6267-4555  
E-mail maf-jrcsns@mynavi.jp

会員の皆様のご健勝、ご発展を祈念しております。

### ■ 日本赤十字看護学会事務局

\*会員管理以外の学会事務業務は、これまで同様に日本赤十字看護大学内の事務局で行っています。

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内  
E-mail jrcsns@redcross.ac.jp Fax 03-5485-5777



NEWS LETTER The Japanese Red Cross Society of Nursing Science Vol.15, 2017.

日本赤十字看護学会ニュースレター 第15号 2017年12月発行

#### ●発行 日本赤十字看護学会 広報委員会

東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内

#### ●学会ニュースレターは学会ホームページからダウンロードできます。

<http://jrcsns.umin.ne.jp>

#### ●学会ニュースレターに関する皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

[nisikata@rchokkaido-cn.ac.jp](mailto:nisikata@rchokkaido-cn.ac.jp)

[namimo@rctoyota.ac.jp](mailto:namimo@rctoyota.ac.jp) までお願いします。

#### ●編集後記

日本赤十字看護学会学術集会は、全国の赤十字病院および看護師養成機関等の関係者が一堂に集う貴重な機会であり、毎年多くの方に参加していただいておりますが、今後の赤十字看護の発展に向けて、更に参加者が増えることが望まれます。会員の皆様には、積極的にご参加いただき、全国に仲間を増やしていただければと思います。また、今回のニュースレターでは、今年度初めて学会に参加した方の声を掲載しました。赤十字施設で働く看護師の皆さんも、是非会員になっていただき、学術集会にデビューしていただきたいと思っております。お待ちしております。